

第11回 科学映画と講演の会

「ハグロトンボ調査からわかる舞岡川環境」

～横浜市立舞岡中学校科学部の取り組みについて紹介～

横浜市立大学木原生物学研究所では、市民の方により自然科学へ興味を持ってもらうため、毎年「科学映画と講演の会」を開催しています。身近にある自然から最先端の科学のことまで紹介しているDVDを毎回見ながら、専門家が身近なトピックについて語ります。今回は、木原生物学研究所がある戸塚区内の横浜市立舞岡中学校科学部による舞岡川のハグロトンボ調査について、国土交通省や横浜市も協力している取り組みを紹介していきます。

日 時：2016年10月16日（日） 10：00～12：00
 会 場：横浜市立大学木原生物学研究所（舞岡キャンパス）
 3階ホール
 受 講 料：無料（事前予約制・先着120名）

第1部 DVD上映

「米ちゃんのみがえれ地球～アースプロジェクト21～」サイエンスチャンネル提供

今、日本の河川改修工事は曲がり角にきている。従来の治水工事は川の氾濫を防ぐことを第一に進められてきた。その結果、日本の川の多くはコンクリートの護岸に囲まれ、巨大な排水溝のように直線的な川の流に作り変えられてしまった。洪水は減ったものの、川辺の植物は繁茂する場所を失い、魚や水生昆虫といった水の中の生き物も姿を消してしまった。近年、川の本来あるべき姿を取り戻しつつ治水を行う「多自然型川づくり」が注目を集めている。多自然型川作りとは一体どのようなものか？この研究の第一人者独立行政法人土木研究所の小澤卓思さんを訪ね、全国で行われた工事を例に多自然型川づくりとは何かを伺ってゆく。



第2部 舞岡中学校科学部の取り組み紹介

- ①「ハグロトンボ調査 ～環境学習と市民科学の視点から～」 科学部顧問 宮崎裕明教諭
- ②「舞岡川のハグロトンボ 生息数の変化と縄張り行動について 第3報」
- ③「舞岡川のハグロトンボの復活と下水道の普及の関係について」
- ④ ポスターセッション・質疑応答 科学部 学生

ハグロトンボは、市内の河川でごく普通に見られるトンボである。横浜市では昭和の中頃姿を消し、平成になって再び姿を見せた。このことは、今回の調査で下水道の普及と密接な関係があることが分かった。また、舞岡小・舞岡高と合同調査を通して、その生態と縄張り行動などが少しずつ明らかになってきた。今回は名古屋で行われた第53回下水道研究発表会と過去5年にわたる合同調査の結果について報告する。

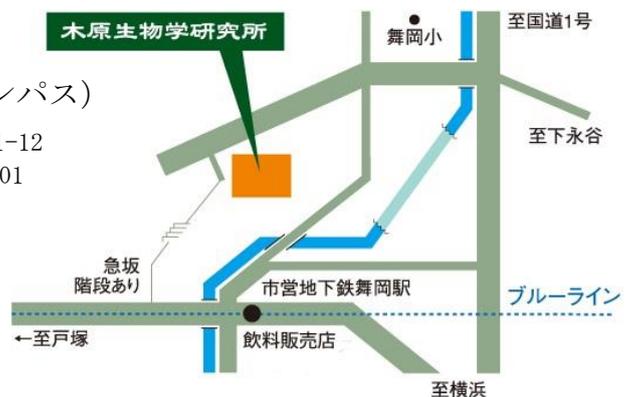


※申し込み方法について
 9月20日（火）より裏面の申込書に必要事項を明記し、FAX又はEMAILでお送りいただくか、電話にて下記申し込み先までお申し込みください。

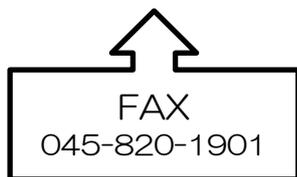
会場・お問合せ・お申し込み先



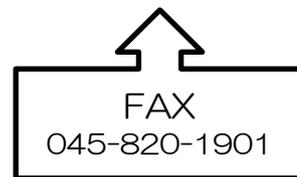
木原生物学研究所（舞岡キャンパス）
 〒244-0813 横浜市戸塚区舞岡町 641-12
 TEL: 045-820-1900 / FAX: 045-820-1901
 Email: kihara@yokohama-cu.ac.jp



<受付時間：月～金 9：00～17：00（祝日除く）>
 ※お車でのご来場は駐車スペースがありませんので、ご遠慮ください。



講座申込書



講座名	第 11 回 科学映画と講演の会		
ふりがな			
氏名			
住所	〒		
電話番号 (連絡のつく番号)		FAX 番号	
Eメールアドレス	@		
年代	～10代・20代・30代・40代・50代・60代～		
(学校に通っている場合) 学校名、学年	小・中・高等学校		年
何を見てお申込みを されましたか？	市大WEBサイト・メールマガジン・広報よこはま・新聞() ちらし【入手先：市大キャンパス・市大附属病院・市大センター病院・ 市役所・区役所・地区センター・図書館】 その他()		
本講座の受講動機、 期待していることを お書きください			

※お書きいただいた個人情報は、条例に基づいて適切に取り扱い、本学が主催するイベントのためのみで使用いたします。また、本学からイベントのご案内をさせていただくことがございます。今後のご案内を希望されない方は、横浜市立大学木原生物学研究所事務室までご連絡ください。

お問合せ・お申込み先

YCU
横浜市立大学

木原生物学研究所（舞岡キャンパス）

〒244-0813 横浜市戸塚区舞岡町 641-12

TEL:045-820-1900/FAX:045-820-1901

Email: kihara@yokohama-cu.ac.jp

<受付時間：月～金 9:00～17:00（祝日除く）>

木原生物学研究所とは？

ゲノム概念の先駆者である木原均博士の考え方を受け継ぎ、植物科学研究を中心としている研究所です。研究所が所有するコムギやトウガラシの遺伝資源を活用しながら国内外の研究機関と連携し、未来を担う研究者の育成や食品・環境などの身近な問題解決のために地域や国際社会へ貢献しています。